

# Public Voices 声のらん

皆さんの「声」にお答えします。

《声のらん》では、「市長への手紙・ポスト」などに寄せられた声とその答えの中から、市民の皆さんの参考になる問答をご紹介します。(内容確認のため、連絡先と名前をご記入ください。)  
【〒066-8686 / 東雲町2丁目34 / 千歳市企画部広報広聴課宛】

## 防衛省が助成する住宅防音工事の対象区域や種類を教えてください。

〔40歳代／女性〕

**声**

自衛隊戦闘機の騒音対策として、防衛省が住宅の防音対策を実施しているようですが、工事の対象区域や種類について教えてください。また手続などはどこでできますか。

**答**

住宅防音工事の対象区域は、国が航空機の騒音調査に基づき指定した、青葉、住吉、寿、富丘の一部など《うるささ指数》75W以上の区域となっており、昭和57年3月31日までに建築された居住用の住宅が対象となります。

住宅防音工事は、窓や壁などを防音仕様に改修し、換気扇など空気調和機器を設置するもので、《うるささ指数》や《世帯》の状況により、それぞれ工事可能な居室数や工事内容が決まっています。

また、この助成で設置した防音建具（防音サッシ）や空気調和機器（冷暖房機や換気扇など）については、工事が完了した日から10年を経過し、その機能の全部または一部を保持していない場合、その機能を復旧する機能復旧工事を実施することができません。

防音建具については、平成31年度から、アルミサッシに加え、樹脂サッシも機能復旧工事の対象となります。

住宅防音工事の対象や内容、手続などの詳細は、北海道防衛局企画部防音対策課

（☎011-272-7569）または、千歳防衛事務所（☎23-3145）にお問い合わせください。

お答えします

企画部基地政策課  
☎(24)0468 FAX(22)8852



国（防衛省北海道防衛局）は、自衛隊や在日米軍の航空機による騒音を軽減するため、航空自衛隊千歳基地周辺の住宅に対して防音工事の助成を行っています。

対象区域を示した図面や、区域指定の内容については、北海道防衛局千歳防衛事務所でご覧いただけます。



新市史下巻発刊に向けて

シリーズ第10回（全12回）  
千歳高校から始まった  
市立図書館への歩み

筆者・田村俊之

市史編さん担当  
☎(24)0523 FAX(42)3134

**始**

まりは昭和26年1月、GHQの民間情報教育局（CIE）の協力で設置された札幌CIE図書館千歳分室でした。場所は本町3丁目の旧町役場庁舎。前年の6月から当時は町立だった千歳高等学校が校舎に利用していました。分室の高校内設置は全国で初めてのこと、管理を千歳高校が担うことになりました。千歳高校の『二十年史』によると当時の蔵書数は、CIE図書800冊、道立図書館の図書205冊など合計1269冊とあります。ただし、CIE図書はすべて英文のため、利用者の多くは道立図書館の図書を利用してはいたようです。

その後、同26年10月に千歳高校が千歳中学校の旧校舎に移転することになり、高校による管理は同年7月で終了。管理は役場が引き継ぎました。27年の講和条約発効後に千歳分室は廃止になったよ

